

○高速実験炉「常陽」原子炉施設（補正書の提出（平成30年10月26日））の地震・津波等の評価は、大洗研究所（北地区）HTTR（高温工学研究炉）原子炉施設の設置許可申請書（令和2年6月3日許可）を踏まえて実施。相違事項について、下表に示す。

設置許可申請書における項目		大洗研究所（HTTR）との相違点など	備考
地盤	敷地周辺の地質・地質構造	大洗研究所（HTTR）と同様 （13の断層を震源として考慮する活断層として評価）	—
	敷地の地質・地質構造	「常陽」周辺のボーリング調査結果の追加 ・ボーリング調査結果より、敷地に分布する地層はほぼ水平に堆積しており、敷地には将来活動する可能性のある断層等はないことを確認	資料2
地震	検討用地震の選定	大洗研究所（HTTR）と同様 ・「常陽」及び「HTTR」の地震動特性を比較し、両地点が概ね同様であることから、「常陽」の地震動評価には「HTTR」の地震動評価を用いることとしている。	資料3
	検討用地震の地震動特性評価		
	震源を特定せず策定する地震動		
	基準地震動Ssの策定		
津波	概要	大洗研究所（HTTR）と同様 （敷地に最も影響を及ぼす津波波源として「茨城県沖から房総沖に想定する津波波源」を選定し、津波評価を実施。評価の結果、敷地に津波は到達しないことを確認。）	—
	津波の水位評価		
基礎地盤の安定性	基礎地盤の安定性評価	・耐震重要施設の基礎地盤の安定性評価を確認	次回以降ご説明
火山	降下火砕物の層厚及び密度に関する評価	大洗研究所（HTTR）と同様 （降灰量：50cm 密度1.5g/cm <sup>3</sup> と設定）	—